



あさひ
小野 旦陽 さん

●西中学校 3 年

父の背中を追いかけて

私の夢は、父のように「お客さまが笑顔で帰れる」和食店を経営することです。
小さい頃から厨房に立つ父の姿に憧れ、自分なりに料理に挑戦してきました。
その中で、昨年「あなたのためのお弁当コンクール」に出場し、県大会で準優勝することができました。審査の後で「おいしかった」と声を掛けてくださった方の笑顔が心に残りました。褒めていただいたうれしさとともに、料理のもつ『人を喜ばせる力』を実感しました。
これからも父の背中を追いかけて、必ず夢を叶えます。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



暦の上では間もなく立春を迎えます。この冬は暖冬といわれていますが、ようやく冬らしい寒さになってきました。

今年も元旦から観光物産会館の初売り式に臨みました。その後、市内の神社仏閣を訪れ、市民の皆様のご多幸と本市のさらなる飛躍を願ってまいりました。

さて、先月7日には本市主催の新年祝賀会・表彰式を開催し、市内各界代表者など約1千人の皆様と新しい年の門出を祝いました。

10日には、成人式が市内3カ所で開催され、本市では約1200人の方が成人式を迎えられました。今年の新成人の皆様は、「未来」という言葉を贈りました。無限大の可能性が広がる未来に向かって若さという素晴らしい力を大いに発揮し、新しい時代を築いてもらいたいと願っています。

また、17日には新庁舎を背景に消防出初式が行なわれ、佐野鳶工業組合のはしご乗りや消防団員の堂々たる行進等が披露されました。沿道には多くの市民が集まるほか、新庁舎7階の展望エリアから観覧する方々も見られました。市民の安心安全を守るため、日頃より活動される団員そしてご家族の皆様には心から感謝申し上げます。

今月は、7日に伝統ある大澤駅伝競走大会が運動公園陸上競技場とその周辺で行われます。箱根駅伝で活躍した東洋大、日大など約150チームがエントリーしています。寒風に負けず激走するランナーに熱い声援を送ってください。また、21日には新庁舎周辺で「さのまる」の5回目の誕生日イベントが開催されます。多数のご当地グルメやキャラクターが集合します。ぜひ皆様もお越しください。

空気も乾燥しています。インフルエンザ等にならないよう、皆様には体調管理をお願いします。

岡部 正英

今回の表紙 「消防出初式」(市役所南側県道桐生岩舟線) 1月17日(日)



17日、佐野市役所南側の県道桐生岩舟線で消防出初式が行われ、消防団員など約1,260人と消防車両約60台が、佐野日本大学高等学校吹奏楽部の演奏のもと堂々と行進しました。幼年消防クラブの園児たちも「用心、用心、火の用心」と大きな声で呼びかけながら行進しました。

石川 直樹さん (吉水駅前)



〇プロフィール

1986年に大手旅行会社入社後、2001年独立し、吉水駅前で旅行業を営む。

いっ展べえ実行委員会、佐野市環境ネットワーク会議、佐野市まちづくり、条例の会など多方面の分野で佐野市の発展に尽力している。

「ヒト×コト」 世代から世代を繋ぐ

石川さんは、佐野市を中心に街づくり・教育・環境・里山整備など多岐にわたり活動する「地域活性化」の総合プロデューサーのような存在です。

昨年八月、石川さんの営む旅行会社が、全国五四〇〇社の中から、佐野市の観光素材をいかした企画が評価され「第5回地旅大賞」を受賞。佐野市の魅力が全国に発信されました。

またボランティアとして、まちなかの活性化を仕掛ける「いっ展べえ」や地球環境を考える「クールアースデー」の実行委員として携わり、新庁舎完成と市町合併十周年を記念した「Sフェスタ」の際には、実行委員会のアドバイザーとして記念するイベントを盛り上げました。

石川さんは「主体的な市民が、自分たちの手で街づくりをすること。そして、未来を担う子どもたちに繋がりたい」と言います。

「佐野市環境ネットワーク会議」では、各環境部門の繋ぎ役になり、新設された「sanoe ecoキッズ」の活動を支援しています。



里山整備団体の皆さんと一緒に汗を流す

また、「佐野市条例をつくる会」の議会・行政検討部会長として、市民の皆さんと自治基本条例の制定に向けて活動をしています。

地元でも、公民館やコミュニティ推進協議会の役員として事業に取り組みながら、里山整備にも力を入れています。

石川さんに精力的な活動の原点を訊ねると「小・中・高のPTA会長を務めた際、地域の方々に支えられたことの恩返しです」と笑顔で答えてくださいました。

今後の予定は「地域」を誇りに感じている方々と佐野市を楽しみに来てくれる人のために、新会社を設立し、地域に密着しながらグローバルな視点で、訪日旅行などで世界に佐野市の魅力を発信する事業を展開して行くそうです。石川さんの今後の活躍に期待しています！
(市民記者・佐藤久夫)

佐野弁 ばんざい

カーラもゼンテも、事の内容や 状態を強めるときに使われる

ある事柄の内容などを否定する場合には「ぜんぜん」「まるつきり」「からつきし」などが使われ、「基本的なことを学ばないと、いくら勉強したって、ぜんぜん（まるつきり）わかんないね」などといいます。

これらの語とほぼ同じような意味や用法をもつ方言にカーラ・カラがあり、否定をよりいっそう強める働きをします。カーラ（カラ）は、からつきり（からつきし）の省略されたことばです。

「そんなにヤツケナ（面倒な）仕事でもネーのに、ハー（もう）ヤンナツチャツタ（嫌になった）ンだって！カーラ意気地ネー男だなあ」

刃物がすつかりさびてしまったり、跳ね上がったどろ水で着物が汚れたりすることがあります。このようなふさいだ心情を言い表すのに、ゼンテ・ゼンテを用い、やや強めた表現をします。ゼンテ（ゼンテ）はすつかり、全部、まるで、すべてといった意味です。

「ゴロゴロサマ（かみなり）が鳴り出したと思ったら、急に雨が降ってきて、上着もズボンも、ゼンテびしょ濡れンなっちゃった」

またゼンテは、すつかり駄目になったことを含めて言うこともあります。

「雨の夜、酒に酔って道路でヒックリケツテ（転んで）、着物をゼンテにしちゃった」

「野菜が雹（ひょう）に打たれてゼンテンなっちゃった」
ゼンテ（ゼンテ）は、「全体」が意味変化したものです。

(市民記者 森下喜一)

